

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 赤坂保育園
施設所在地	東京都港区赤坂8-12-16 NOZY AKASAKA1・2・3F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な楽器や音色を知り、演奏することで音楽の楽しさを実感する

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

以前より、それぞれのクラスの子どもたちが様々な楽器に興味をもって、楽器を手作りしたり保育園にある楽器を工夫して使用しながら、鳴らしたり演奏することを楽しんでいる姿が多く見られていた。

だが、園には限られた楽器しかなく演奏もその楽器を工夫して使いながらしか出来なかった。今回は子どもたちが『もっと楽器をしたい』という声と保育者から『ピアノだけではなく園外にも持ち出して演奏して一緒に歌ったり踊ったりしたい』という声を聞いて【音楽】に視点を置いた。様々な楽器を取り入れて、楽器に触れたり鳴らし方や音を知り、最初は『楽器』というものがどのようなものなのか学び、経験を通して演奏をすることの素晴らしさを知った。

スタッフたちの声で保育室や園外でも子どもたちに演奏したり、一緒に歌ったりしたいということで『ウクレレ』を準備し講師に指導を受けた。最初は持ち方もよくわからない状態であったが、講師やネットで調べたりしながら勉強して子どもたちの前で弾きながら一緒に歌ったり、クリスマス会ではクリスマスソングを、子どもたちの前で演奏して一緒に歌うなど盛り上がって子どもたちがとても喜ぶ姿が見られていた。

2. 活動スケジュール

【7月～8月】楽器に出会う・楽器を購入する

子どもたちが楽器に出会い、子どもたちが楽器を演奏して音を出したいという気持ちが出る

【8月～10月】プロの演奏を聴く（※わくわくライブ）

演奏曲を子どもたちと一緒に決めることで、事前に練習を行う。

プロの演奏を間近で聴くことで、憧れの気持ちをもつ。

【9月】楽器のショールーム訪問（※鈴木楽器販売株式会社東京オフィス訪問）

今まで見たことない、触れたことのない楽器に触れ、オフィスのスタッフの方との交流を通じて、音楽の楽しさや音遊びの幅を広げることにつながる

【10月～12月】園児向け音楽ワークショップ

月に一度2～5歳児クラスに音楽の講師が楽器の名前、鳴らし方や演奏の仕方の指導

プロから学びもっとやりたい→園内での毎日の音楽活動の広がりにつながる

【8月～12月】スタッフの向けウクレレワークショップ

保育者自身も演奏ができるようになることを目指し、ウクレレワークショップに参加。日常の保育の活動の中で、ウクレレの活用が園内に広がる。5歳児のお別れ会で、園児が披露した曲を保育者も演奏できるように準備を進めている。

【12月】

保育者がクリスマス会でウクレレでクリスマスソングを3曲演奏し、子ども達が曲に合わせて歌い一緒に盛り上げる

【3月】

○お別れ会での発表会：3月

保育者の中にはピアノが不得意で楽譜を見ることも難しい者もあり、中々音楽を取り組めないでいた。もっと身近に音楽を入れていきたいということで、ウクレレを導入し子ども達と音楽を通してつながることを意図とした。保育者からピアノがない戸外などにもウクレレを持ち出して、歌ったり踊ったりできるようになったら楽しいという意見があり、ちょっとした場では保育者の演奏で楽しむように取り組んでいけるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

●楽器

- | | | |
|------------------|------------------|------------|
| ・TONECHIME | ・スレーベル | ・ウクレレ |
| ・Kids Djembe Set | ・Music Push Pump | ・電子ピアノ |
| ・リズムスタンド | ・ニノハンドドラム | ・ニノシンバル |
| ・グロッケン | ・ベル・ハーモニー デスク | ・laptopカホン |
| ・ザイロフォーン | | |

●わくわくライブ

●鈴木楽器販売株式会社東京オフィス訪問

●園児向け音楽ワークショップ

●スタッフ向けウクレレワークショップ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【7月～8月】楽器に出会う

子どもたちが楽器に出会い、子どもたちが楽器を演奏して音を出したいという気持ちが出る園の楽器が少なかったところに、初めて見る楽器と出会うことでどうやって音を出すんだろうという子どもたちの興味関心が高まった。

【8月～10月】プロの演奏を聴く（※わくわくライブ）

プロの演奏聴き、一緒に歌い、体を動かすことで、日常の音楽活動の広がりにつながった。

【10月】楽器のショールーム訪問（※鈴木楽器販売株式会社東京オフィス訪問）

今まで見たことない、触れたことのない楽器に触れ、オフィスのスタッフの方との交流を通じて、音楽の楽しさや音遊びの幅を広げることにつながる。ショールームを訪問することで、今自分たちの園にある楽器をさらにどういう形で音を出すのか、演奏するのか、という気持ちが生まれた。

【8月～12月】園児向け音楽ワークショップ

6回のワークショップの中で子どもたちに変化がみられた。

なんだろう？と漠然と興味を持つ姿→好きな楽器を選んで演奏することを楽しむ姿→音楽にあわせて演奏することを楽しむ姿。

毎回、音楽との関わりで子どもたちの興味が深まった。

プロの演奏家とのかかわりの中で、保育者も刺激を受け、日常の活動の中に音楽の時間を取り入れることができた。子どもたちの興味の深まりや演奏することの意欲につながっていった。

【8月～12月】スタッフの向けウクレレワークショップ

子どもたちだけでなく、大人も音楽活動に触れた。

ワークショップに参加した後も、定期的に保育者が集まって練習を重ねる。3月に行われる5歳児のお別れ会の中で披露するために練習をおこなった。保育者も音楽について慣れ親しむことで、子どもたちの活動にもいい影響が与えられた。

【12月】クリスマス会

クリスマス会にてスタッフがウクレレで「あわてんぼうのサンタクロース」「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」を演奏し、子ども達が合奏したり歌ったりして一緒に会を盛り上げた。それまでの期間でスタッフが練習している姿を見たりしており、子ども達はウキウキ、ワクワクした様子だった。クラスでもウクレレの演奏に合わせて歌ったりして、すぐ隣に音楽があるような環境をつくっていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【7月～8月】楽器に出会う

今まで見たことも触れたこともない様々な楽器が園に来て子ども達は少しウキウキした様子があった。子ども達はスタッフに『あれなーに?』『やってみたい』などと伝えて興味を強く持っていた。

【8月～10月】プロの演奏を聴く (※園内演奏：わくわくライブ)

楽器の全く興味や関心を持たなかった子どもたちが、ライブでの演者さんの姿を見たり演奏を聞いて「楽しい～。弾いてみたい～。やってみたい。」などの声もありすごくワクワクしたようにイキイキとした姿が見られていた。保育者も演奏に参加すると、『すご～い、自分たちもやりたい』等との声が聞こえてきて意欲的な様子があった。

【10月】楽器のショールーム訪問 (※鈴木楽器販売株式会社東京オフィス訪問)

オフィスでは園にない楽器も含め、多くの楽器が並べられており嬉しそうと同時に驚いた様子だった。今まで見たこともない形や大きさの楽器を見て『これなーに』『なんていう楽器?』『どうやって使うの?』などと口々にスタッフに話しかけていた。

【8月～12月】園児向け音楽ワークショップ

初めて見る楽器や名前も知らなかったがつきもあったが講師に教えてもらったり、鳴らし方を知って「やりたい、やりたい」と意欲的にワークに参加して楽器に触れ合いながら音を楽しんでいた。保育者も子ども達と一緒に楽器を鳴らして演奏し、あまりやりたがらないこどもがいると寄り添って声をかけながら参加していた。

【8月～12月】スタッフの向けウクレレワークショップ

スタッフの数名が講師にウクレレを指導してもらい曲を練習した。じょじょに弾けるようになるとクラスで子どもの前で弾きながら歌ったり、誕生日やクリスマスでは演奏して子ども達の喜ぶ姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

楽器に対して興味や関心はあったが、園にはタンバリン、カスタネット、鈴、ピアノカ程度で殆ど用意がなかったため、楽器をあまり知らなかった。

だが、今回のすくわく活動にて様々な新しい楽器を購入し揃えたことにより、子ども達は直ぐに『見たい、触れたい。やってみよう』という好奇心でいっぱいになり、保育者が楽器を紹介すると目を輝かせていた。保育者は今までは楽器が無かったから子ども達が『音』に対してあまり興味や関心を持たなかったり、触れてみたいという気持ちにならなかった事を感じた。このように沢山の様々な楽器が取り入れられると、『音楽』に対しての気持ちも大きく変化し、音を耳で感じながら意欲的に楽器を使いたいという意欲的な様子が子ども達から感じられ保育者と一緒に楽器に触れると嬉しそうに自由に振ったり叩いたり鳴らしたりして楽しんでいる姿が見られた。

『わくわくライブ』でプロの演奏さんの演奏が行われると、子ども達はとても気持ちを高鳴らせたように様々な楽器に見入って音楽を聴いたり、一緒に歌ったり体を動かしたりと楽しく参加していた。その際に、楽器に対して更に興味を持って『やりたい』という気持ちが強くなっていた。

その後、月に一度の『園児向け音楽ワーク』が始まると、楽器の名前、音、使い方を講師から教えてもらいみんなで合奏をする楽しさに繋がっていった。子ども達は毎月のこの時間を楽しみにするようになり、「今日はどんな楽器を使うんだろう」「あの楽器を使って楽しく演奏したいな〜」などと、声を出すようになっていた。徐々に楽器の使い方も覚えて、各クラスでの楽器遊びの際には友だちとの楽器の交換も楽しみながら演奏することに喜びを感じているようであった。また、保育者は講師の指導や子ども達との取り組み方をみて刺激を受けて自分たちでも楽器の活動を取り入れて一緒に行っていた。以前は、どのような導入をしてどのような指導を行っていくべきなのかを分からなかったり、悩んで音楽の活動をあまり取り入れていなかったが、講師の影響で日常に発展させていきたいという思いが生まれている。子どもだけではなく保育者もこのように良い影響を受けて意欲的な取り組みとなった。

5歳児クラスは鈴木楽器のオフィスに行き、スタッフとかかりながら園にはない様々な楽器に出会うと嬉しそうに触れたり鳴らして夢中になっていた。、『もっとやりたい』という気持ちが強くなったようだった。

現在、各クラスでは活動の時間に楽器を使用したり、発表会に向けて楽器を使用して演奏することを楽しんでいる。今後も引きつづき楽器を使用して音の楽しさや音楽の楽しさを知って取り組んでいきたいと思っている。保育者がウクレレを弾くようになり、子ども達は『大人が楽しそうな事をしている』と大いに興味を持つようになり、一緒に演奏したり保育者の伴奏に合わせて歌ったりと明るい雰囲気の中過ごしている。また、クリスマス会では保育者が子どものペースに合わせて楽しそうに3曲演奏すると、張り切った様子で歌ったり楽器を鳴らして、普段とはまた違う良い雰囲気の中となった。保育者が練習をしていると、保護者も声をかけてきたり興味を持って見ている姿もあった。来年度は保護者も一緒に演奏したり聞いてもらったり、地域の方も巻き込んで音楽でつながり、取り組みたいと考えている。